

「未来に花咲く自律的な児童」 を育む学校を目指して

新教育課程における児童・保護者アンケート結果



②みんなが安心できる学校改革

R6秦西小「三位一体の改革」

安心できない要因

「指導の難しさ」の顕在化

- ・授業中、立ち歩く児童
- ・集中が保てない児童
- ・教室に入れない児童
- ・保護者への説明と対応

教員の経験・スキル等の差が表面化

- ・教員の急速な若返り
- ・学級経営が不安定な学級が存在
- ・〇〇先生がよかった・「先生ガチャ」

ゆとりのない職場環境

- ・放課後も児童保護者対応に追われ、授業準備は勤務時間外に。
- ・職員共通の目標が不明確で、児童の情報交換をするゆとりもない孤独感。
- ・年休取得にも気が引ける

教員の思い

- ・指導、対応への不安
- ・休むと迷惑をかけるという負担感

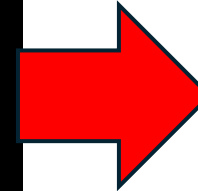
一人で背負う
重圧の重さ



児童・保護者の思い

- ・先生によって授業や学級の運営に差があり不安。

担任によって変わる
学校環境に不安



R6秦西改革案

①40分授業
午前5時間制の導入

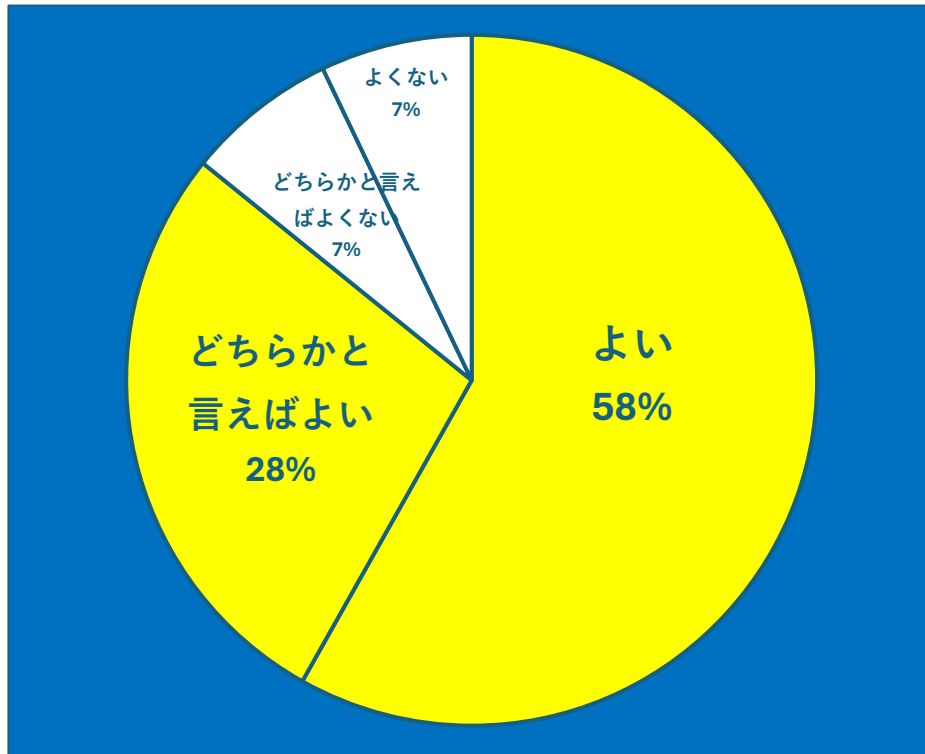
②学年担任制の導入
(4・6年生)

③教科担任制の導入
(5年生以上・4年は交換授業)



時間割						
	月	火	水	木	金	土
1						
2						
3						
4						
5						
6						

40分授業午前5時間制における**児童**の意識【7月】

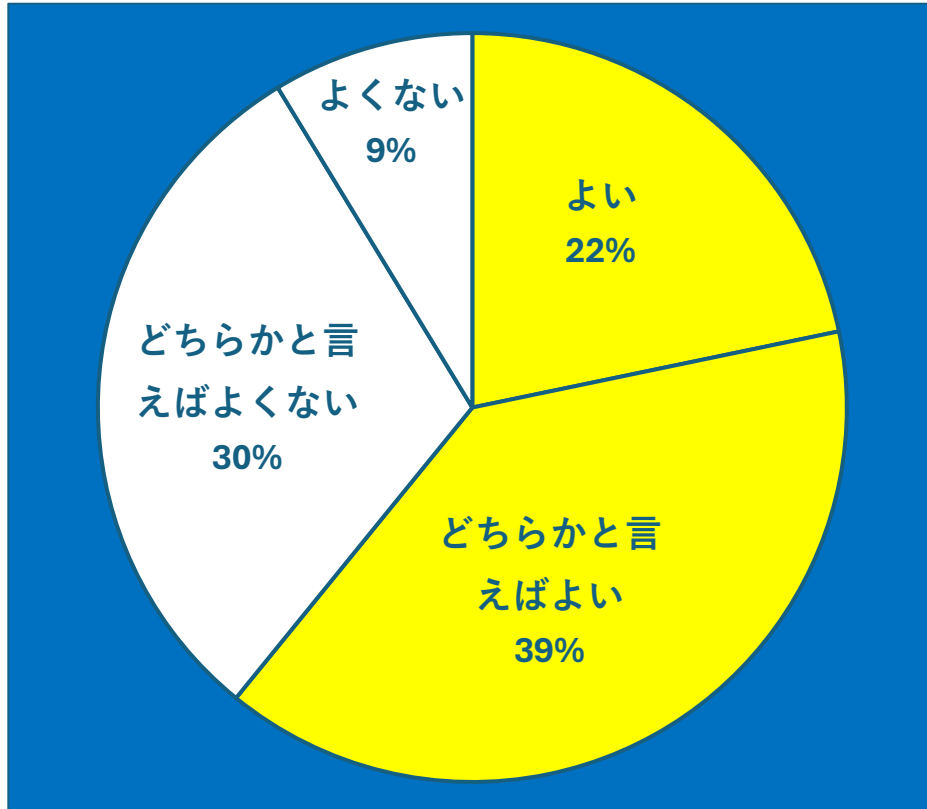


3～6年生への児童アンケートより

- ◎6時間目が集中して取り組めるから。
- ◎時間が5分短くなって少し楽になったのと5時間制で家に帰れるのが早くなったから。
- ◎授業が短くて、わかりやすくていい。
- ▲給食が遅く感じるからです。
- ▲帰る時間は早く帰えることができて嬉しいですが午前中に5時間あるのは少し大変なので中休みを伸ばして欲しいです
- ▲午前中が多く、疲れる。前は2時間やって休憩だったからリズムがたもたれていい。

86%の児童が肯定的に感じている。しかし、午前中に慌た
だしさを感じている。

40分授業午前5時間制における保護者の意識【7月】

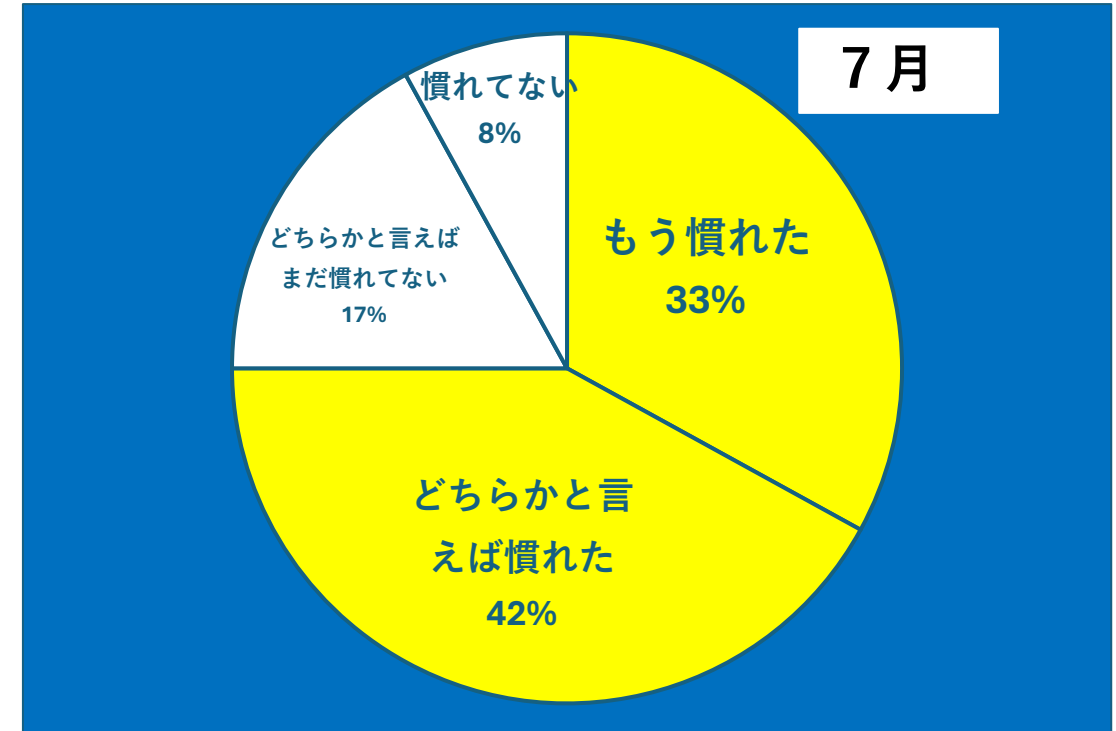
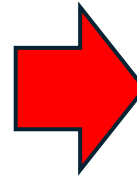
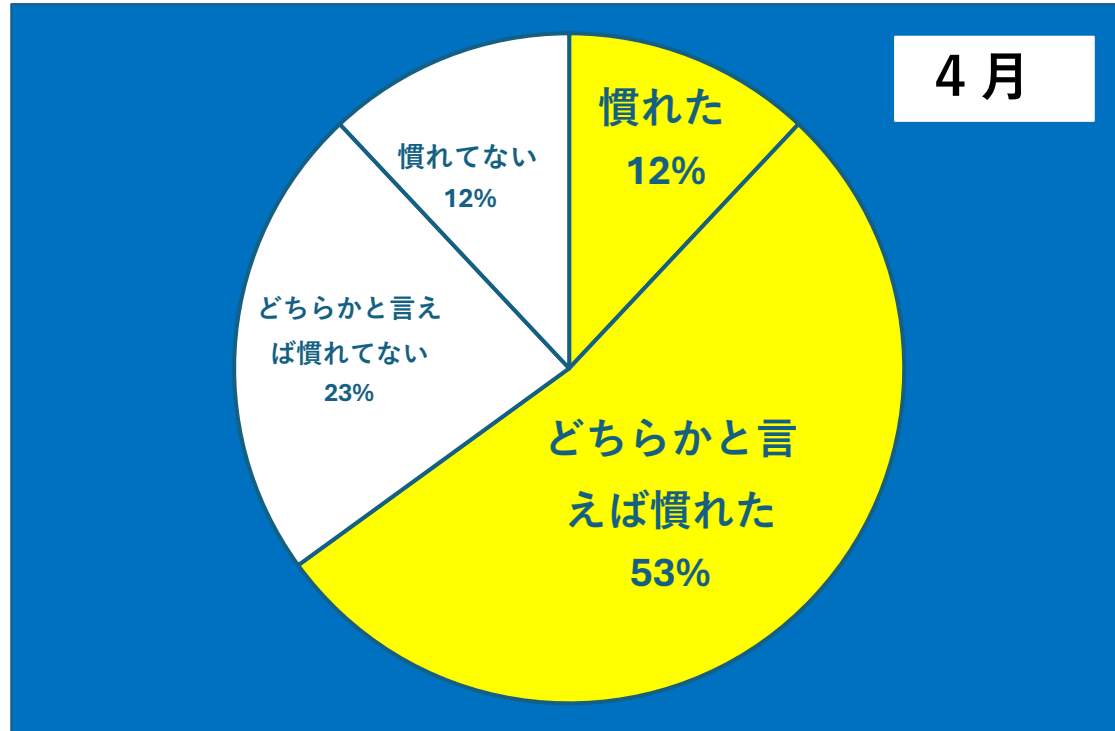


保護者アンケートより

- ◎勉強に集中できているから。
- ◎メリハリのある学習ができると思う。集中力は保たれていいと思う。
- ◎放課後の時間が長くなって今まで遊んだ事ないお友達とも家とか外とかで遊べるから子供はすごく喜んでます。
- ▲中学に上がった時に、50分授業に耐える力が低下するのではと心配。
- ▲集中力の観点では40分でいいと思いますが、授業内容が中途半端にならないのか心配
- ▲帰宅時間は早く家にいる時間が増えてダラダラしてるように見える

61%の保護者が肯定的に感じている。しかし、約4割が学習や中学校への接続に不安を抱えている。

40分授業午前5時間制の教員の適応



1 学期終了時点で75%の教員が適応している。

午前中の日課をみんなで考えよう!

7月9日～12日 体験週間実施中

A 中休みを5分のばす

学校の生活 火水

朝の会 (健康観察)	8:20 ~ 8:30
1校時 (40)	8:30 ~ 9:10
2校時 (40)	9:15 ~ 9:55
3校時 (40)	10:00 ~ 10:40
10分間休憩 中休み	10:40 ~ 10:55 (5分)
4校時 (40)	11:00 ~ 11:40
5校時 (40)	11:45 ~ 12:25
給食	12:25 ~ 13:05
昼休み	13:05 ~ 13:30(水) 13:05 ~ 13:45
そうじ	13:35 ~ 13:45

B 4・5時間目の休けいを5分のばす

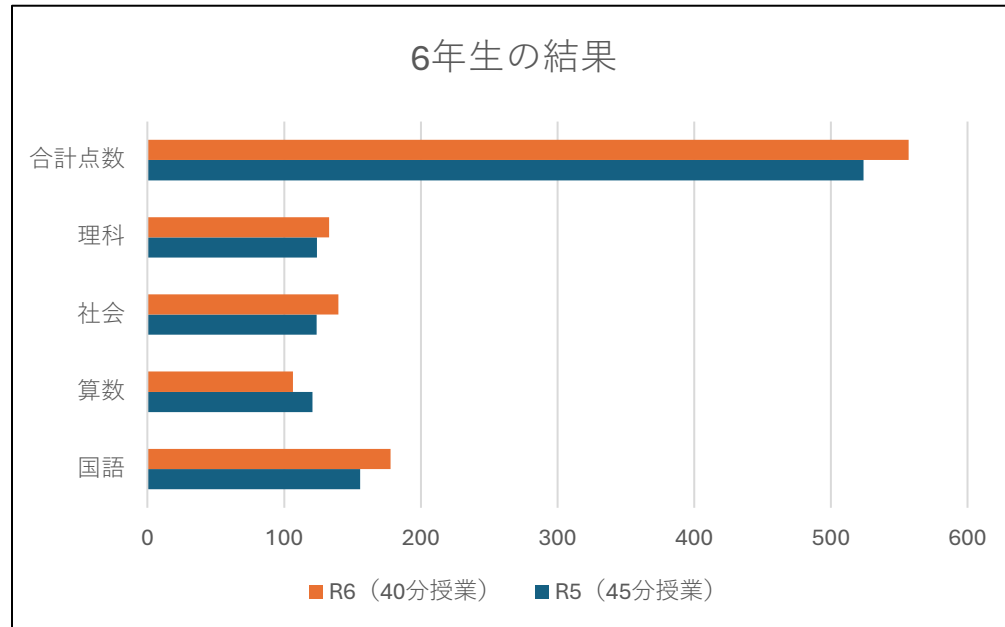
学校の生活 木金

朝の会 (健康観察)	8:20 ~ 8:30
1校時 (40)	8:30 ~ 9:10
2校時 (40)	9:15 ~ 9:55
3校時 (40)	10:00 ~ 10:40
10分間休憩	10:40 ~ 10:50
4校時 (40)	10:55 ~ 11:35 (10分)
5校時 (40)	11:45 ~ 12:25
給食	12:25 ~ 13:05
昼休み	13:05 ~ 13:30
そうじ	13:35 ~ 13:45

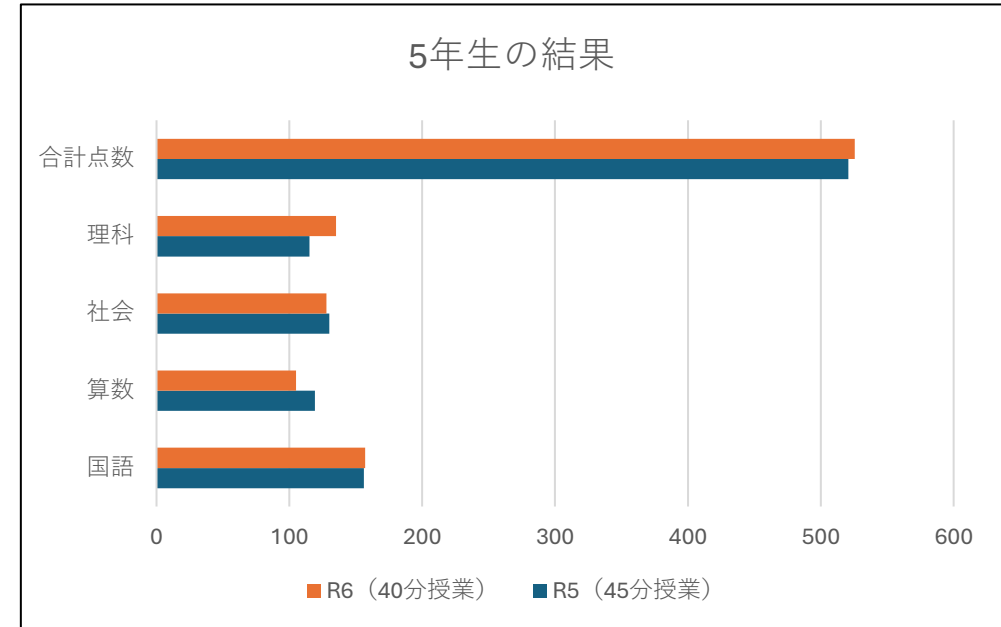
午前5時間制の中で、午前の生活にゆとりを生み出すため、2学期から6時間目も40分授業とし、ここで生み出した5分を午前に回すことにしました。そこで6年生と考えたA案とB案を今週実際に体験し、児童の意見を聞いた上で、2学期からの日課を決めていきます。

2学期からは、中休みを5分のばし、午前中の慌ただしさを緩和していきます

40分授業と45分授業における期末テストの点数比較



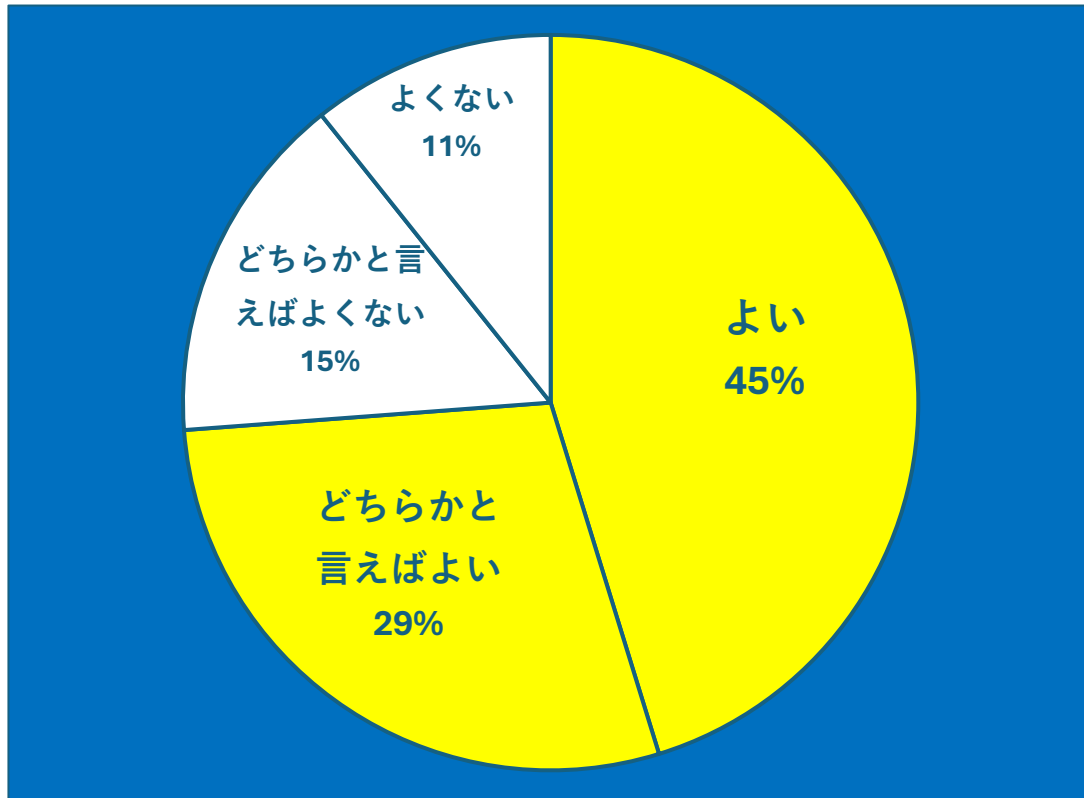
6年生	国語	算数	社会	理科	合計点数
R5 (45分授業)	155.5	120.7	123.7	124	523.9
R6 (40分授業)	177.8	106.4	139.7	133	556.9



5年生	国語	算数	社会	理科	合計点数
R5 (45分授業)	156.2	119.2	130.1	115.2	520.7
R6 (40分授業)	157.2	105.1	128	135.3	525.6

同じ学年で昨年（45分授業）と今年（40分授業）を比較したところ、今年度（40分授業）の平均点が上がっている教科が多く、現時点において40分授業で学力が低下しているとは言えない。

学年担任制への児童の意識【R6 7月】

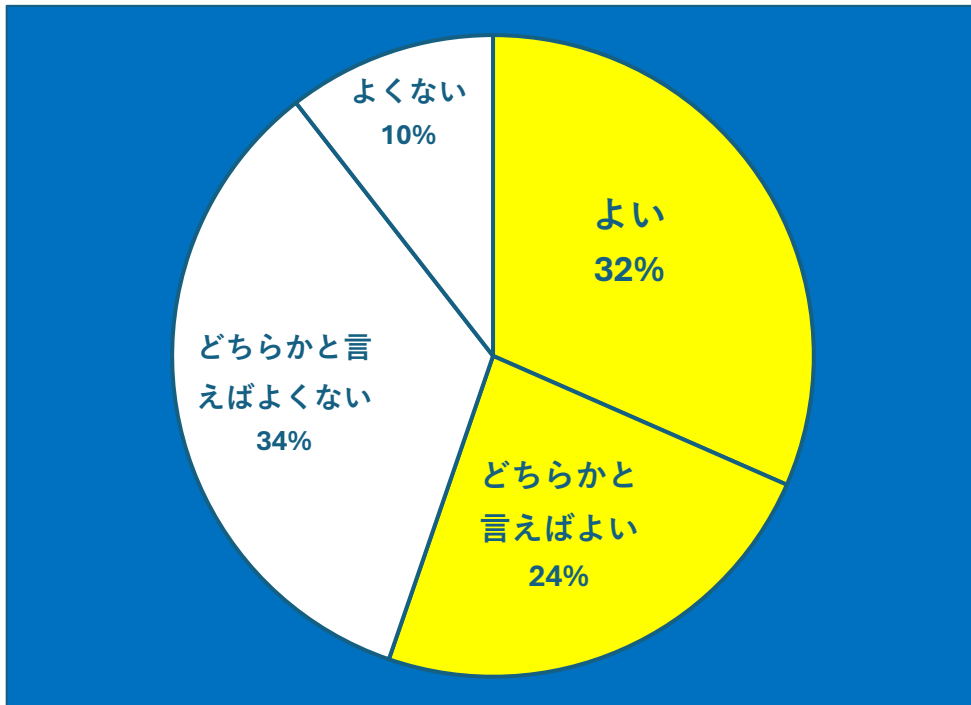


4年・6年生への児童アンケートより

74%が肯定的であり、4月と比較して、児童の意識に大きな変化は見られない。

- ◎前までは、1人の先生だけだったけど、4年生になってから、色々な先生と、絆を深めることが出来るから。
- ◎一週間ごとに変わるから毎日がたのしいから！
- ◎いろんな先生が来てくださって、お話できるからです。
- ◎いろんな人に相談しやすいからやりやすい。
- ▲先生1週間ごとに変わるのは、ややこしいです。
- ▲片方の先生にしか伝わっていない場合がある
- ▲まようことがある。

学年担任制への保護者の意識【R6 7月】

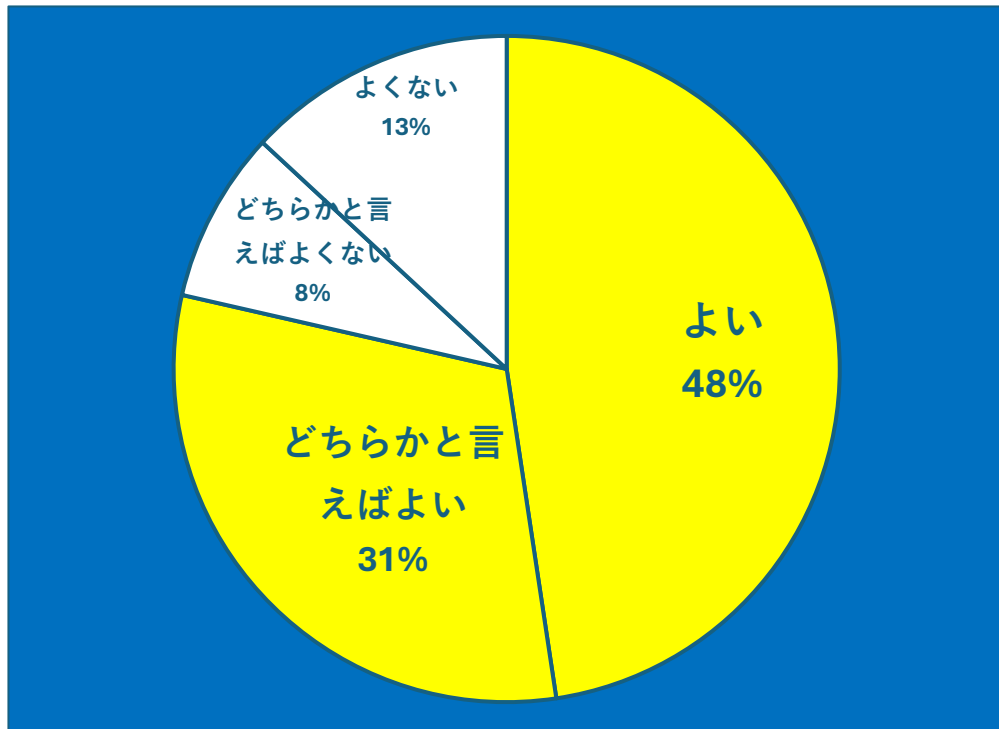


4年・6年生への保護者アンケートより

- ◎クラス関係なく学年で統一されている気がする。
- ◎先生達の色々な意見や考えにふれることができるから。
- ◎教員同士の学び合い、相乗効果の為若い教師の早期習熟に効果があるかと思う。
- ◎男女それぞれの担任であれば各々が相談しやすいと思う。
- ▲週ごとに変わるので、同じ話をまた1から話さないといけない。あまりいいとは感じない。
- ▲もっと長い期間がなければなんとも言えない。違う目線でクラスを見てくれるのは良い事とを感じるが、接する時間も薄くなる。
- ▲担任は1人がいい
- ▲クラスのお便りがないので、クラスの様子がわからない。クラスのまとまりも前に比べると難しいように感じる。

保護者の意識としては、肯定、否定ともにほぼ同数である。

交換授業(4年)・教科担任制への児童の意識【R6 7月】

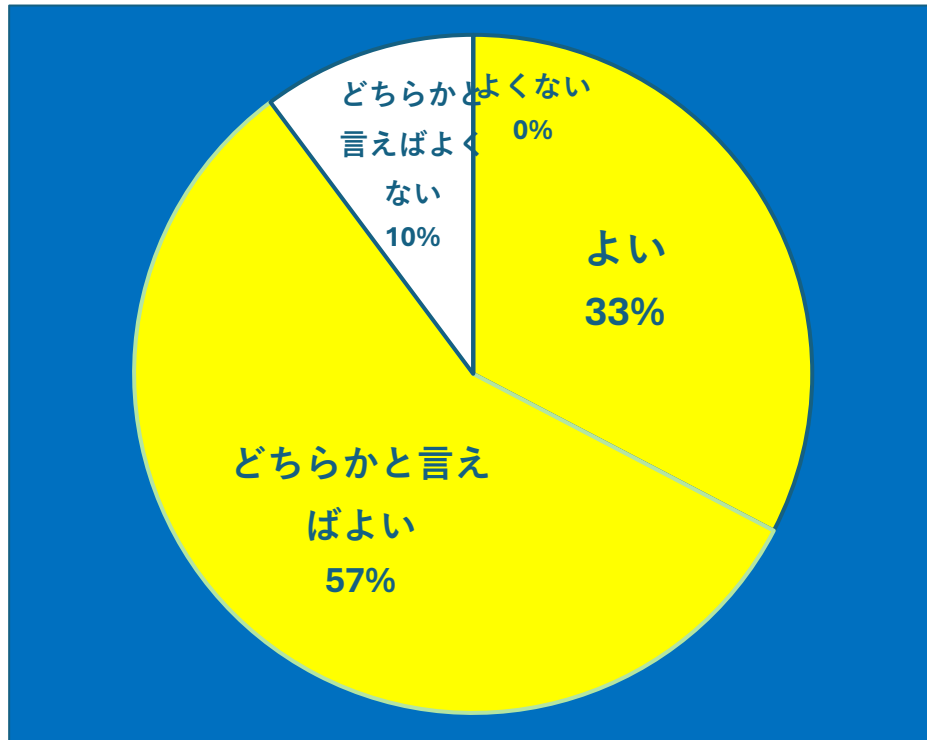


4～6年生への児童アンケートより

- ◎その教科が得意な先生が教えてくれているから。
- ◎なれてきた。
- ◎いろんな先生が来てくださって、お話するのがいいと思ったからです。
- ◎全て同じ先生だと得意不得意があり授業の進み具合がばらつくけど、教科担任制だと同じスピードでできるから。
- ▲ころころ変わるのはあまり好きでない。
- ▲まだなれない。
- ▲わかりやすい先生とわかりにくい先生がいるから。

肯定的な意見は79%と4月より微増。一方、教科によって先生が変わることにまだ慣れていない児童もいる。

交換授業(4年)・教科担任制への保護者の意識【R6 7月】



4～6年生への保護者アンケートより

- ◎中学生になった時に戸惑うことなく授業が受けられることができると思います。
- ◎クラスによる担任教師間の熟練度の格差是正には繋がると思います。
- ◎教え方が統一されていていいと思う。
- ◎専門性が高くなり子供により良く落とし込める事を期待している。
- ◎いろいろな先生に出会うことはとてもよい。
- ▲まだ結果がついて来ていないので判断が難しい。
- ▲いい授業、悪い授業の判断が子どもでもできるのはいいことかと思います。子どもへの授業アンケートも実施して、改善するべきところはしてもらいたいです。

保護者の90%が肯定的と保護者の評価は高い